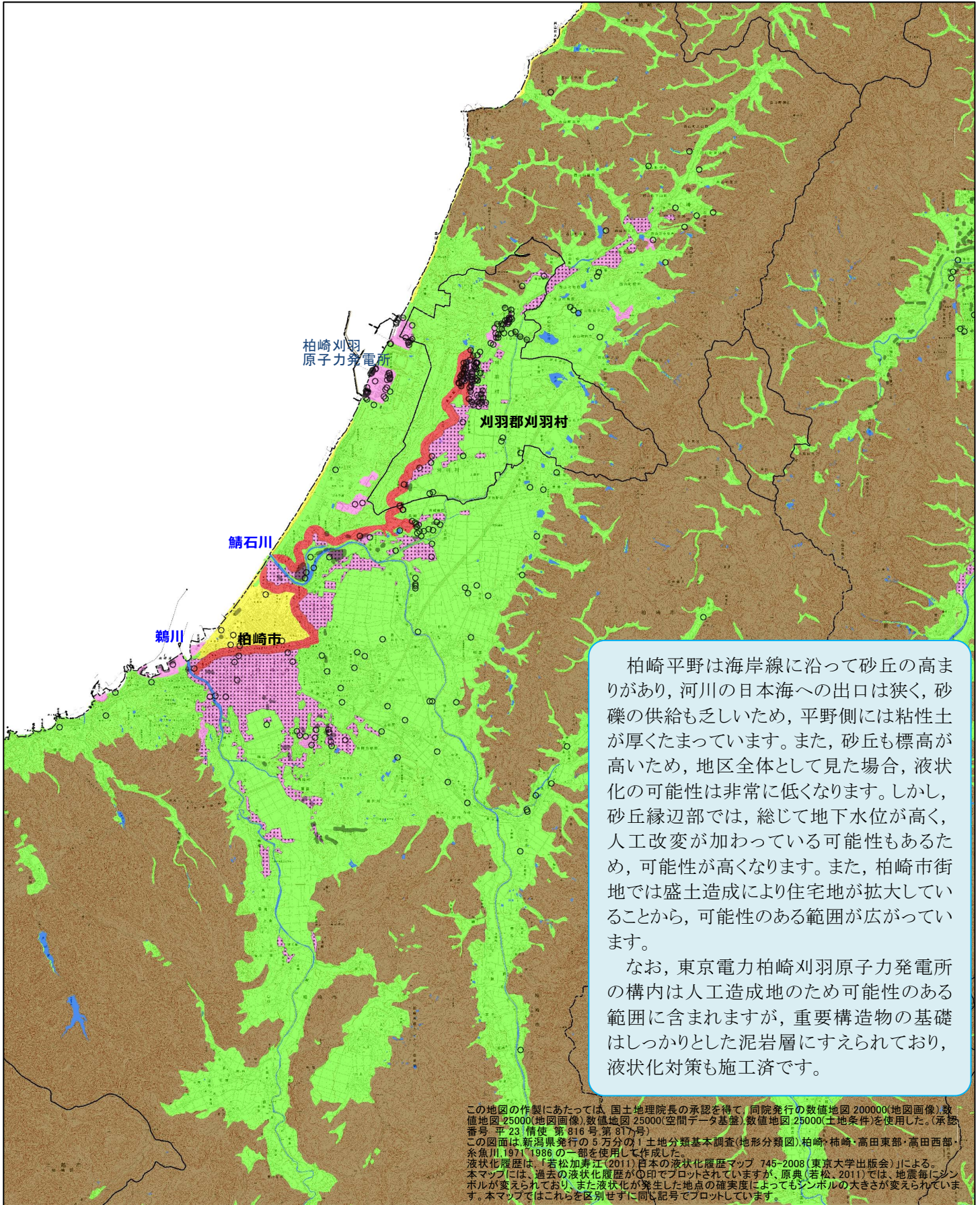
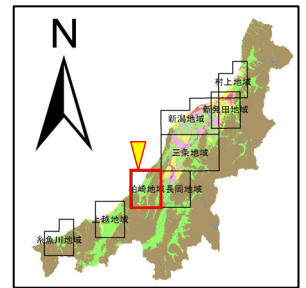
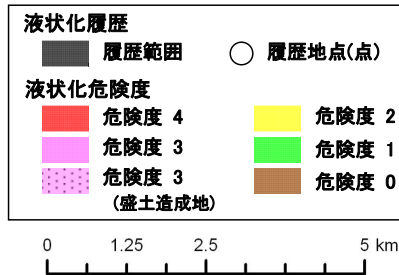


# 柏崎地域



柏崎平野は海岸線に沿って砂丘の高まりがあり、河川の日本海への出口は狭く、砂礫の供給も乏しいため、平野側には粘性土が厚くたまっています。また、砂丘も標高が高いため、地区全体として見た場合、液状化の可能性は非常に低くなります。しかし、砂丘縁辺部では、総じて地下水位が高く、人工改変が加わっている可能性もあるため、可能性が高くなります。また、柏崎市街地では盛土造成により住宅地が拡大していることから、可能性のある範囲が広がっています。

なお、東京電力柏崎刈羽原子力発電所の構内は人工造成地のため可能性のある範囲に含まれますが、重要構造物の基礎はしっかりとした泥岩層にすえられており、液状化対策も施工済です。

この地図の作製にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 20000(地図画像)・数値地図 25000(地図画像)・数値地図 25000(空間データ基盤)・数値地図 25000(土地条件)を使用した。(承認番号 平 23 情使 第 816 号 第 317 号)  
 この図面は新潟県発行の「土地分類基本調査(地形分類図) 柏崎・新潟・高田東部・高田西部 糸魚川 1971」1986の一部を使用して作成した。  
 液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」による。  
 本マップには、過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では、地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。